

授業概要

証券市場論は、証券すなわち有価証券に関する市場を学ぶ講義科目である。学部の大学生にとって、同じ金融機関でありながら、預金を扱う銀行は身近であるが、証券を取り扱う証券会社はよくわからないという場合が多い。そこで、本授業では、大学の専任教員になる前に、銀行と証券会社の両方での勤務経験を有する講師が、その違いをわかりやすく理解できるような講義を行う。証券市場の参加者は、資金調達として有価証券を発行する主に事業会社、その有価証券を購入して投資運用を行う投資家、事業会社と投資家の間を仲介する証券会社などのプレーヤーから構成されている。また、投資家も、個人投資家のほか、仕事として年金資金等の運用を行う機関投資家（プロ投資家）に区分できる。低金利、マイナス金利の経済環境下では、銀行に預金しても、なかなか財産形成はむずかしい。財産形成と証券運用の関係についても、講義対象とする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（証券、証券市場などの基礎知識）
第 2 回	証券法制の変遷（証券取引法から金融商品取引法へ）
第 3 回	金融機能の違い（間接金融と直接金融）
第 4 回	銀行の 3 大機能と、証券会社の 4 大業務
第 5 回	証券会社の典型的な仕事の内容
第 6 回	株式発行市場
第 7 回	株式流通市場
第 8 回	債券発行市場
第 9 回	債券流通市場
第 10 回	個人の資産運用（証券投資か銀行預金か）
第 11 回	個人の証券税制（NISA など積立商品）
第 12 回	機関投資家（年金基金など）
第 13 回	機関投資家（投資信託）
第 14 回	株式評価方法（一般の株式投資）
第 15 回	株式評価方法（M&A、企業買収）
第 16 回	期末試験

到達目標

銀行と証券会社のどちらに就職したいか、自分で判断できるようにする。最低限のリスクとリターンを理解して、証券運用による資産形成の方法を理解できるようにする。

履修上の注意

金融市場や証券市場が経済成長（景気）に与える影響が大きく、世の中のさまざまニュースが、証券価格（株価や債券価格、金利等）に影響する。できるだけ、毎日、経済記事（ニュース）を読んで、それが、経済の先行きにどのような影響を与えるか、自分なりに考えるようにこころがけてください。

予習・復習

毎回、授業で配布する資料を、講義後に十分に復習してください。予習は、予告した次回のテーマに関するキーワードをインターネット検索する、前述の経済記事を毎日読むなどを、こころがけてください。

評価方法

評価は、期末試験（50%）と、原則、毎回実施する理解度確認ミニレポート（50%）で総合的に判断。

テキスト

授業中に資料を配布する。なお、本講義を理解するのに有用な参考図書として、会計・ファイナンス入門・第3版（鯖田豊則著、税務経理協会、2020年）と、お金の社会学（鯖田豊則著、同友館、2015年）がある。